



九州北部では、今後1か月(8月7日～9月6日)予想は平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%と予想されている。

1. 出穂期以降の水管理について

・出穂開花期前後は水を溜めておき、その後は、根の活力を維持するように間断かん水を行いましょ。早期落水コメの品質低下を招くので、収穫7日前まで間断かん水を行いましょ。

※台風時の水管理

- ・台風時は暴風によって茎葉の損傷、粃ずれが生じて品質が著しく低下する場合や通過後のフェーン現象による高温乾燥で白穂が発生するので、早めの深水湛水に努めて下さい。
 - ・稲が冠水した場合は、早期に汚濁水を落として、新しい水と入れ換えて下さい。
- 台風通過中の水路、ほ場へは絶対に行かないでください。

※高温時の水管理

・9月上中旬までの高温は、乳白米や背白米を増加させ、品質を低下させる原因となります。これを避けるために「かけ流し」を行いましょ。夕方行う方が、地温を低く保つことができます。

2. 病害虫防除について

- ・8月10日付けで大分県よりいもち病注意報が発表されました。
- ・基幹防除を基本に、病害虫の発生が多い場合、それぞれ追加防除が必要になります。

表 出穂期前後の農薬一覧(基幹防除)

薬剤	防除時期	病害虫	施用量
トライスタークル粉 DL	出穂期前後 (穂ばらみ～穂揃い)	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	3～4kg/10a
ビームエイトスタークルゾル			1,000倍・60～150L/10a

各病害虫の防除ポイント

○いもち病

葉いもち病の発生があった圃場では、穂いもちに注意して下さい。
穂ばらみ期と穂揃い期の2回を散布して下さい。

○ウンカ類

頭数が多い場合は基幹防除に加えて1頭/株以上の場合は随時防除して下さい。

○カメムシ類

頭数が多い場合は基幹防除に加えて穂揃期以降に防除を行って下さい。

大分県農業協同組合豊肥事業部農産課 63-4994
 大分県豊肥振興局生産流通部集落営農・
 水田畑地化第一班 63-3177